

研究主題「自立活動の指導及び評価に関する研究

- コミュニケーションの指導・評価ツールのパッケージ化 - 」

東京都教職員研修センター研修部企画課

東京都立七生養護学校 教諭 渡辺裕介

研究主題設定の理由

WHOによる平成 13 年 5 月の I C F（国際生活機能分類）の改訂によって、障害についての分類がこれまでの医療モデルから生活機能モデルの視点へと転換し、個人因子と環境因子などの観点が加わった。また、特別支援教育の推進が図られようとしている今日、平成 17 年度からの盲・ろう・養護学校における個別の教育支援計画策定の実施に伴って、生活場面での支援と支援機関との連携が学校での課題となっている。

知的障害養護学校では自立活動の指導を通して社会生活での自立を促進するための指導が行われている。しかし、実際の社会生活においては生徒たちが学校で身に付けた力を十分に活用できていない実態がある。

そこで、本研究では知的障害養護学校におけるコミュニケーションの指導を取り上げて、自立活動に関しての実態把握、指導、指導後の評価について「支援」という視点で見直すこととした。

研究の内容・方法

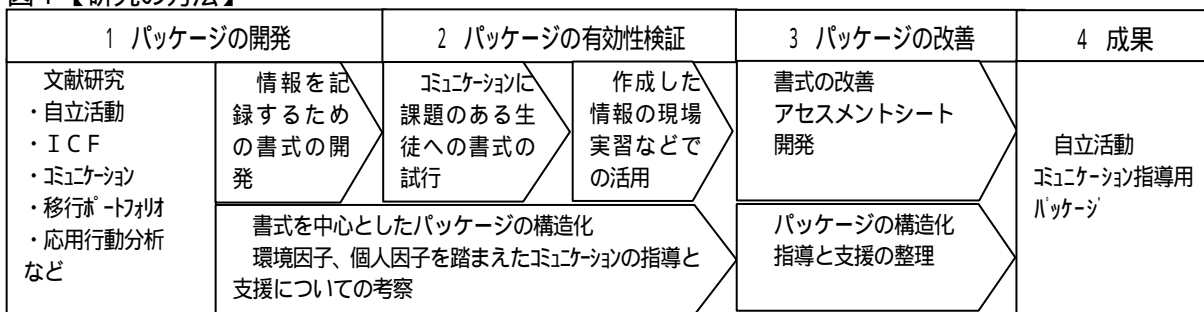
1 研究の仮説

- ・コミュニケーションの支援に有効な情報を収集、整理、生成、加工するための書式を開発し、書式を評価において活用することにより、コミュニケーション指導の評価がより具体的、客観的になる。
- ・具体的、客観的な評価を行うことにより、指導目標や指導内容が明確になり、自立活動におけるコミュニケーションの指導が改善される。

書式、書式ごとのマニュアル及び記入例、アセスメントシートをまとめてパッケージ化した。パッケージ化したものを「コミュニケーションの指導と評価のパッケージ」と呼ぶこととした。

2 研究の方法

図 1【研究の方法】



研究の結果と考察

1 コミュニケーションの指導と評価のパッケージの開発

(1) コミュニケーションの指導と評価のパッケージ(以下パッケージ)の位置付け、情報の引き継ぎ方法の分析、検討

本研究ではパッケージを「個別の教育支援計画」と「個別指導計画」とをつなげるツールとして位置付けた。情報の引き継ぎ方法として、平成 15 年度教育研究員心身障害教育部会教育課題分科会「一人一人の学びが連続する指導と評価の工夫」における「移行ポートフォリオ」の試案を参考とした。

(2) コミュニケーション機能の分析、支援に必要な情報に関する検討

コミュニケーション、ICF、応用行動分析、行動支援などの文献や学習指導要領を分析し、コミュニケーション支援に必要なと思われる情報を、自立活動の指導におけるコミュニケーション区分の5項目で整理した。

(3) 情報を記入するための書式の開発

個々の情報に関して、それぞれの機能を分析し書式を17種類開発した(表1参照)。開発した書式には、自立活動の評価を「第三者が支援に生かせる具体的な情報」として記入する。そのまま支援に役立てることを前提にし、次のような共通した特徴をもたせた(図2参照)。

図2【書式の例：コミュニケーションのための辞書】

書式2-3(a)

コミュニケーションのための辞書(a)
氏名 _____

私がコミュニケーションのために使う方法です。

方法	こんな意味です	こんなときに使います
・表情を変化させる (険しい表情になる)	・嫌だ ・イライラしている	・いつ終わりになるのか分からない ・何をしたいのかわからない
・目を見つめる ・相手の目を見ながらうなずく	・お願いします	・やっていることを終わりにしたい ・何かして欲しいことがある

個人情報ですので、取扱いには十分注意してください。

どのような情報が入っているのか、分かりやすくするために、タイトルをつける。この例では、「コミュニケーションのための辞書」

1枚の書式には1種類の情報だけ記入する。例のように「コミュニケーションのための辞書」なら、このことについてだけを記入する。

必要に応じて、書式を追加する。例えば、「問題行動への対応」についての情報が必要となった時、新たな書式を使って情報を作成する。

この特徴により、次の情報活用上の利点が生まれた。

ア) 児童・生徒の実態に応じて必要な情報を収集・整理・生成・加工できる。

イ) 必要な情報を取り出しやすくなる。

(4) 書式ごとのマニュアルおよび記入例の開発

書式を記入する際や書式を指導で活用するために必要と思われる情報をまとめ、書式ごとのマニュアルおよび記入例を開発した。

(5) アセスメントシートの開発

児童・生徒のコミュニケーションにおける課題を整理し、開発した17種類の書式を選ぶ作業を円滑に行うために、アセスメントシートを開発した。

項目ごとに「本人の実態」と「現在行っている支援」を記入する。「コミュニケーションの方法」と「行動面、対人関係」の項目についてはさらに「できること、もう少しできそうなこと」と「困っていること、緊急な課題」に分け、肯定的な評価と今後の課題の両面が記入されるように工夫した。

(6) 開発した成果物のパッケージ化

効果的な活用を図るために、書式、書式ごとのマニュアル及び記入例、アセスメントシートを1つにまとめ、パッケージを作成した(図3参照)。

図3【パッケージの構成】

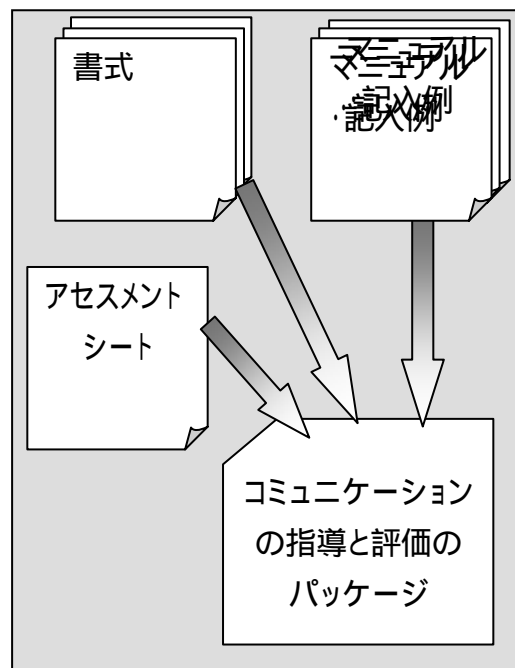


表1【開発した書式一覧】

書式番号	書式の名前	書式の内容
(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること		
1-1	本人が分かるほめ方	本研究では「ほめ方」を適切で肯定的な評価と定義している。学校での指導場面だけでなく、人とかかわりながら生活する上で必要となる「本人が分かるほめ方」を具体的に記入する。
1-2	記憶力と記憶を補助するもの	言葉の理解などに影響を与える「短期記憶(作業記憶)」と記憶の保持に関わる「長期記憶」だけでなく、本人の記憶力や意欲の問題と間違えられやすい「シングルフォーカス(同時に複数の情報を処理できない)」などの支援の情報についても記入する。
1-3	好きなもの、嫌いなものリスト	特に言葉でのコミュニケーションが難しい児童・生徒に対しては、「好きなもの、嫌いなものリスト」は意味あるやり取りを増やす上で非常に重要な情報である。
1-4	活動を促すきっかけ	児童・生徒の実態によっては、日常生活において介助を受ける場面が、人とのやり取りとして重要な意味をもつ場合がある。このような児童・生徒の自発的な行動やコミュニケーションを引き出すのに有効なきっかけ(例えば、歯磨きにおける歯磨き粉のにおい)を記入する。
(2) 言語の受容と表出に関すること (3) 言語の形成と活用に関すること (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること		
2-1	視覚情報	器質的な視覚の障害だけでなく、知的障害や発達障害による視覚情報の受け取り方についての情報も記入する。
2-2	聴覚情報	器質的な聴覚の障害だけでなく、知的障害や発達障害による聴覚情報の受け取り方についての情報も記入する。
2-3 コミュニケーション辞書		
2-3 a)	行動や感情表現	行動や感情表現をコミュニケーションの手段として使う児童・生徒の場合に、それぞれの行動や感情表現がどのような意味をもつか記入する。
2-3 b)	実際のもの	実際のことをコミュニケーションの手段として使う児童・生徒の場合に、それぞれのものがどのような意味をもつか記入する。
2-3 c)	絵や写真	絵や写真をコミュニケーションの手段として使う児童・生徒の場合に、使える絵や写真とその意味を記入する。
2-3 d)	ジェスチャー	ジェスチャーをコミュニケーションの手段として使う児童・生徒の場合に、使えるジェスチャーとその意味を記入する。
2-3 e)	サイン言語	サイン言語をコミュニケーションの手段として使う児童・生徒の場合に、使えるサイン言語とその意味を記入する。
2-3 f)	言語	言語をコミュニケーション手段として使えるが、発音がはっきりしない場合や使える言葉が限られている場合に、使える言葉のリストを作成する。
2-3 g)	誤解されやすい言葉、態度	言語をコミュニケーション手段として使えるが、誤解されやすい言葉づかいや態度がある場合に、その意味を記入する。
(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること		
5-1	問題行動への対応	問題行動はコミュニケーションとしての意味をもっている。問題行動の背景にある意味に対して適切に対応するための情報を整理して記入する。
5-2	場面によるコミュニケーションの違い	環境や人が変わることによる不安などによって過剰に確認を求めたり、反対に黙ってしまう児童・生徒の場合に、そのときの配慮などの情報について記入する。
5-3	約束やルール	約束やルールは設定するだけでは意味をもたない。関わる人が約束やルールを理解し、守れたときや間違ったときに適切に対応することが大切である。約束やルールを共通して理解するための情報を記入する。
5-4	一人でできること、支援が必要なことのリスト	「一人でできること、支援が必要なことのリスト」の情報は、かかわる人の適切な励ましや、スムーズな支援を促す。

2 コミュニケーションの指導と評価のパッケージの有効性検証

(1) コミュニケーションの指導と評価のパッケージの有効性を以下のとおり検証した。

検証対象	検証内容
養護学校 児童・生徒 小学部、中学部、高等部 各1名	書式、マニュアル、記入例：記入しやすいか、自立活動の指導の見直しや改善ができたか アセスメントシート：記入のしやすさ、書式の選択ができたか その他：教員や保護者などとの連携で活用できたか
養護学校 教員	書式、マニュアル、記入例：分かりやすいか、自立活動の指導の見直しができるか アセスメントシート：記入しやすいか、書式の選択ができたか その他：パッケージの改善についての意見など
作業所 利用者・所員	書式、マニュアル、記入例：分かりやすいか、指導の見直しができるか その他：学校との連携についての意見など

(2) 検証方法：関係者への聞き取り調査、アンケート調査、パッケージを使って作成された成果物についての検討、により検証を行った。

(3) 検証結果及び考察

	アンケートにおける意見	考 察
書式 マニュアル 記入例	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートブックのような形でとても役立つ。 ・書式を選ぶのに時間がかかる。 ・17枚の書式は多いのではないかと。 ・記入例が充実するとよい。 ・使いやすい書式を選んでしまったかもしれない。 	<p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員によってアセスメントシートで実態を整理することが有効な場合と、直接書式を作成することが有効な場合があることが分かった。指導や支援を具体的にイメージしている教員にとっては、書式を直接活用する方が分かりやすい。 ・「問題行動への対応」「コミュニケーション辞書」「約束やルール」などの記入しやすい書式が選ばれる傾向がある。 ・パッケージは現在の実態の把握に有効である。 ・現在の指導を見直し、生活における支援を見通した指導への改善に有効である。しかし、より具体的な指導の改善につなげるために、実際の活用の中でより精査する必要がある。 <p>【保護者・支援者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や支援者は、具体的に使いやすい形での情報提供について高いニーズをもっている。
アセスメントシート	<ul style="list-style-type: none"> ・考え方の整理に役立つ。 ・アセスメントシートと書式の関係が分かりにくい。 ・児童・生徒の実態によって使いにくい場合もあった。 	
指導の見直しへの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の実態を把握しやすい。 ・問題点や改善点を出しやすい。 ・活用の仕方が重要である。 	
作成された支援のための情報	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を見付けやすい。 ・簡潔に記載されていて誰が読んでも理解しやすい。 ・教員の共通理解のためにも活用できる。 ・周囲の人の理解が広がり、生活の幅が広がる。 ・分かりやすく記入するためには、本当に必要な情報を精選していく必要がある。 	

研究の成果と課題

1 成果

(1) 「コミュニケーションの指導と評価のパッケージ」は指導の改善に有効である

アセスメントシートや選んだ書式に児童・生徒のコミュニケーションの実態及び支援方法を記入することによって、支援に必要な情報の有無が明確になり、指導の見直しや改善に有効である。

(2) 書式を使って作成された支援のための情報は本人支援に有効である

書式を使って作成された情報は具体的な情報であり、また支援の際に必要な情報を取り出しやすいため、支援者だけでなく保護者においても本人理解が深まったという結果が得られた。支援を前提に情報を作成することにより、具体的な情報を通して本人理解が深まり、本人に対し有効な支援を行うことができた。

(3) 支援のための情報は、保護者や支援者との連携の充実に有効である

支援のための情報を学校が提供し生活の中で活用することによって、児童・生徒の指導について保護者や支援者より具体的な検討を進めることができる。そのため保護者や支援者との連携の充実に有効である。

2 今後の課題

(1) 「コミュニケーションの指導と評価のパッケージ」の実際の活用を通しての改善

指導においての実際の活用を通して、パッケージの使いやすさ、記入のしやすさ、書式などの改善を図る。

(2) 本人、保護者と連携した「コミュニケーションの指導と評価のパッケージ」活用についての研究

パッケージを本人、保護者との面談や家庭での取り組みなどで活用する中で、より具体的な連携を進めるための工夫や配慮事項を検証し、パッケージの改善を図る。

(3) 進路指導への活用についての研究

進路指導担当教員や現場実習受け入れ事業所などと連携し、パッケージを進路の学習や産業現場における実習において活用できるかどうかについて検証し、パッケージの改善を図る。